

一滴が潤す、ものづくりの誇りと未来



「一滴乾坤(いってきけんこん)を潤す」。この禅の言葉を、私は長年、経営の拠りどころとしてきました。たった一滴の水も、重なり合えばやがて大洋となり、地球を潤す大きな循環へとつながっていく。企業の歩みもまた、その積み重ねの上にあるのだと思います。

現場でのわずかな配管角度へのこだわり。安全のために交わす一声。お客様の言葉に静かに耳を傾ける時間。どれも派手ではありません。しかし、そうした小さな行為の積み重ねが、信頼という目に見えない流れを形づくり、会社の礎になってきました。

近年、生成AIの進化が社会の景色を変えつつあります。知的労働の多くが効率化される一方で、アメリカでは「ブルーカラービリオネア」という言葉が語られるようになりました。AIには容易に代替できない高度な技能を持つ現場人材が、高い評価を受けているという現象です。

設備の据付や溶接、保全といった仕事は、単なる作業ではありません。図面通りに進まない現場で状況を読み取り、最善を探り、形にしていく。そこには経験に裏打ちされた判断力と、責任感があります。泥臭くも尊いその力の価値が、あらためて見つめ直されているのだと感じます。

私たち大洋産業は、彦根の地で長年、ものづくりの現場を支えてきました。お客様の困りごとに向き合い、知恵を尽くし、最後まで責任を持って形にする。その姿勢を大切にしてきた歩みは、これからも変わりません。同時に、AIという新しい道具を柔らかく取り入れ、設計や提案の質を高めていくこともまた、自然な流れでしょう。

私自身も、学びを止めない存在でありたいと思っています。デジタル技術や経営の知見、異分野の方々との出会い。外からの刺激は、自らを省みる機会を与えてくれます。その一つひとつも、未来を潤す一滴なのかもしれません。

一人ひとりの「一滴」の思いと技術を集め、大きな流れへと育てていく。派手な魔法はありません。しかし、この地道な積み重ねこそが、変化の激しい時代を力強く歩む道だと確信しています。

生成AIが進化し続けるこれからの時代、私たちは何を磨き、何を誇りとしていくのでしょうか。

AIに任せられる仕事が増える中で、私たちにしかできない価値とは何でしょうか。

そして、現場で汗を流し、知恵を絞る仕事の意味を、私たちはどのように次の世代へ伝えていくのでしょうか。

「一滴乾坤を潤す」という言葉のように、皆さん一人ひとりの小さな挑戦や学びが、やがて大きな未来へと静かにつながっていくことを願っています。

大洋産業株式会社

代表取締役

小田 柿喜場

STATION Ai 見学会・交流会

スタートアップ施設「STATION Ai」からみた 人財の相乗効果とLFPIへの期待

日 時：2026年2月9日 午後

場 所：愛知県名古屋市昭和区 STATION Ai

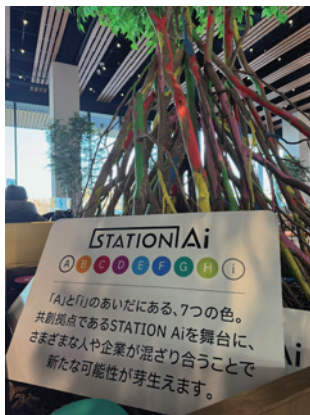
参加人数：見学講演会 16名、懇親会 11名

理事会の開催に合わせ、会員交流会「名古屋場所」が開催されました。

まずは、「STATION Ai」について簡単にご説明いたします。愛知県名古屋市鶴舞公園にある国内最大級のスタートアップ支援施設で、世界最高水準のスタートアップ支援プログラムを提供し、新たなビジネス創出とオープンイノベーションを促進されています。2024年10月に開業した大型の施設では「会員専用ゾーン」・「一般開放ゾーン」で構成されています。「会員専用ゾーン」には、利用者のニーズに合わせて選択可能な3種類のオフィススペース（コワーキング席・固定席・個室席）が用意されており、「一般開放ゾーン」には、飲食店やイベントスペース、宿泊施設などのほか、愛知県にゆかりのある創業者や経営者の功績などを伝える「あいち創業館」が設置されています。



あいち創業館



コンセプトツリー

まずは三菱UFJ銀行から出向されている満永さんから館内の説明をいただきました。施設が新しく開放的であることに目を見張り、何よりも人が集まっていることには驚かされました。それも社会人ばかりでなく、学生や子連れの家族など多様な人が来場されています。ビジネス街特有の堅苦しい雰囲気ではなく、自由でゆとりのある感じ。これが自由な発想と横のつながりを作るポイントなのだと感じました。

なお、入場管理は厳格で、各所にモニターが設置され監視・記録が行われています。セキュリティ面も万全です。

人と人が掛け合わされることで、さまざまな相乗効果が生まれます。理屈っぽく言えば「イチ以上」の人同士が掛けあうと「イチ以上」になります例えば「自

分1.2」×「相手1.5」＝「効果1.8」。ところが、自分が「イチ以上」であっても相手がイチ「以下」であれば効果が下がります。例えば「自分1.2」×「相手0.5」＝「効果0.6」。ベンチャー系の人材は仕事へのモチベーションが高く「イチ以上」の存在。それらの人が集まるとプラス効果になることは必然ということを狙っていると理解しました。



プレゼン

今回は、ベンチャー企業5社の方に各社をプレゼンしていただきました。

企業名	登壇者	企業概要
株式会社 M2X	岡部 様	設備保全 DX アプリ「M2X (エム・ツー・エックス)」の開発・提供
株式会社 KANNON	山下 様	Web アクセシビリティ向上 SaaS を提供し、情報格差解消を実現
Sotas 株式会社	吉元 様	化学産業のデジタルプラットフォームを構築し、化学品の E コマースを展開
株式会社 Spectee	宇都 様	「危機を可視化する」をミッションに、様々なデータをリアルタイムで解析
株式会社 Preferred Robotics	吉原 様	自律移動ロボットの開発・製造・販売

いずれの企業様も非常にモチベーションが高く、分かりやすい説明でした。すぐに実務に活用できそうな内容もあり、価格面でも相場より比較的導入しやすい印象を受けました。間接部門の多い大手企業に比べ、身軽なベンチャー企業はコスト面でも優位性があります。売り込みたいことでしょうし。

ハード面（建物・施設）だけでなく、ソフト面（発想・コンテンツ）においても、この場所にいると「新しいことに挑戦しなければ」という良い意味でのプレッシャーを感じます。「このままでよいのか」と自問させられる空気があります。そうした雰囲気を醸成すること自体が、「STATION Ai」の狙いの一つなのでしょう。すっかりと術中にはまってしまいました。

残念ながら参加できなかったみなさまもお時間を作ってぜひご訪問ください。

会員について。

- ・法人オフィス会員で年会費 27.5 万円。固定席が満席でコワーキング 1 席で月 3.3 万円。
- ・時々利用するリモート会員で年会費 22 万円と利用の度に 0.33 万円。
- ・ちなみに固定のオフィススペースは開業以来満席で順番待ちとのこと。
- ・詳細は HP をご確認ください。

LFPI もこの「STATION Ai」のような存在になることが理想的と考えます。

「液体清澄化技術」という業界であっても、会員各社や協力会員の方々に「イチ以上」の人たちが集まれば、自分以上の効果を得ることができます。自社の中では自分以上の方はなかなかいらっしゃらないのでは？

今期の LFPI の方針は「人と技術が集うオープンスペース」です。LFPI がモチベーションの高い「イチ以上」の人材の集まるオープンスペースになるべくみなさまの参画をよろしくお願いいたします。

〈理事会 細谷代表幹事〉



講義室

LFPI SDGs研究委員会 カーボンニュートラルセミナー

テ ー マ：講演 1 カーボンニュートラル講演
講演 2 カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」

日 時：2026年2月24日 13:20～17:30

場 所：大和紡績株式会社 大阪本社会議室

参加人数：24名

【内 容】

1. インプット講義（基礎知識）

講義では地球温暖化の現状について説明がありました。化石燃料の使用量増加に伴いCO₂排出量が増え特にここ150年ほどでの気温上昇が加速しているとのことで異常気象もその影響の一つと考えられています。

2015年のパリ協定では世界全体で気温上昇を1.5℃以内に抑える努力目標が掲げられました。各国が自主的にCO₂排出削減目標を定める仕組みですが、国ごとの取組み状況に差があるのが現状とのことでした。

CO₂排出量の多い国としては、中国・アメリカ・インド・ロシア・日本などが挙げられ、我が国では2020年10月に経済産業省が中心となり関係省庁と連携して「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定しました。産業政策・エネルギー政策の両面から成長が期待される14の重要分野について実行計画を策定し、高い目標を掲げ、可能な限り具体的な見通しを示しています。また、こうした目標の実現を目指す企業の挑戦を後押しするため、あらゆる政策を総動員しています。また、単にCO₂排出量を減らすだけでなく、「資源を循環させること」「排出したCO₂を回収すること」への取組の後押しも重要とのことでした。世界全体では依然としてCO₂排出量が吸収量を上回っており、増加傾向にあります。



CN 講義の様子

2. カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」

CNゲームを行いました。各業界のメーカーや電力会社、金融、団体、政府などの役割に分かれて2050年の社会を想定しながら、各役割の目標を達成しながら脱炭素社会を目指すシミュレーション形式の内容でした。実際にやってみて感じたのは、いち業界だけでは解決できない・協力と調整が不可欠・経済活動とのバランスが難しい、という点でした。今までは経済活動を維持・拡大しながら温室効果ガスの排出を減らしていくことはトレードオフのイメージがありましたが、今後は両立を目指す時代であるという点が強く印象に残りました。



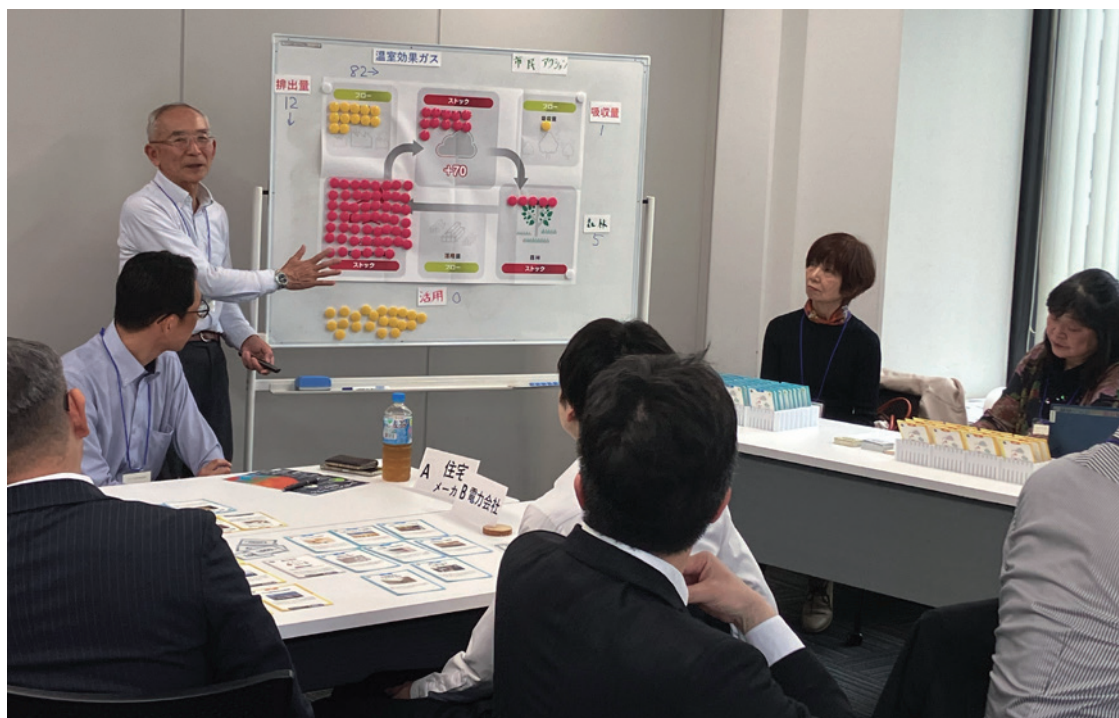
カードゲーム

【所 感】

参加前は難しいテーマという印象がありましたが、実際には私たちの仕事や日常生活とも深く関わる内容でした。CNは特別な取り組みというより、社会全体で少しずつ積み重ねていくものだと感じました。

まずは身近な省エネ活動や資源の有効活用から意識していくことが大切であると思います。今回のセミナー参加をきっかけに環境問題をより自分事として考えていきたいです。

〈大塚実業株式会社 下里 雅也〉



振り返りワークショップ

技術者養成セミナー（関東）

テーマ：水処理プロセスの基礎

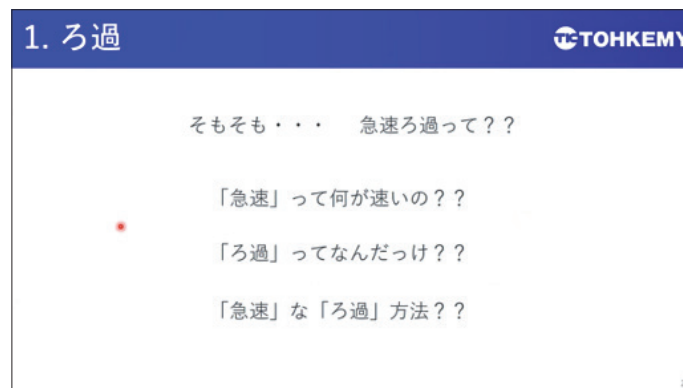
開催日時：2026年3月18日（水）13:00～17:00

開催形式：ZOOMによるオンライン開催（録画配信）

参加人数：30名

講演1 (株)トーケミ 開発 長瀬様 「急速ろ過」

そもそもろ過とは？から始まり、ろ材の種類、ろ過の方式、処理メカニズム、設計時の留意点など最初に必要となる情報を説明頂きました。初学者には全体像をつかみやすく、中級者には化学的な視点で学びなおすことができる良い講演内容でした。

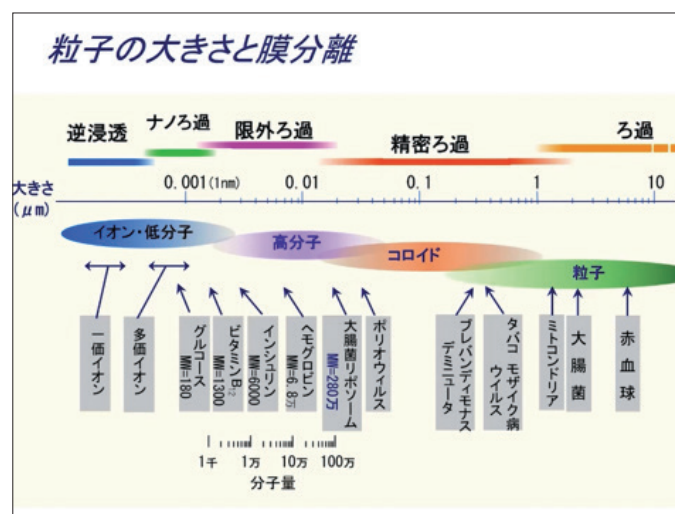


講演1. 急速ろ過

講演2 岩井ファルマテック(株) 中川様 「UFの基礎」

UF膜だけではなくMFやROも絡めて用途や構造、種類について説明頂きました。

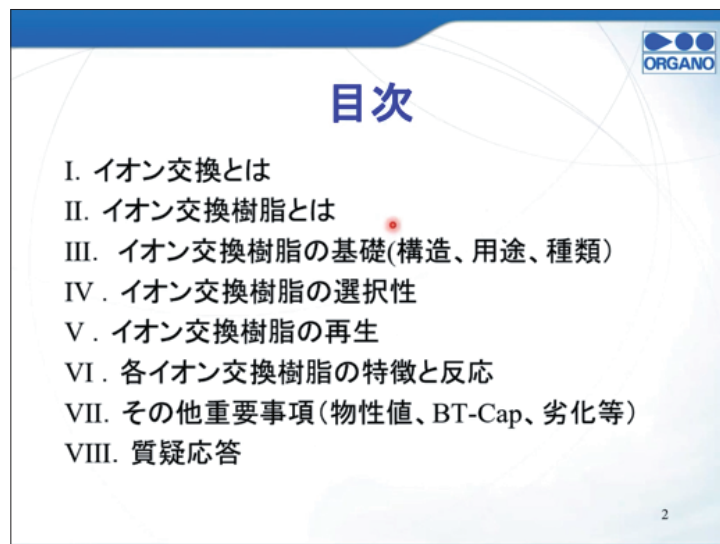
タンパク質の阻止率の話やダイヤフィルトレーションについてなど普段の業務では触れない分野の話もあり、UF膜が使える分野の幅広さと奥深さを知れたことが良かったです。



講演2. 限外ろ過

講演3 オルガノ(株) 機能商品本部機能商品事業部機能材料部 横田様

イオン交換の構造や用途は当然のことながら多くの分類についてそれぞれの特徴や比較など非常に分かりやすく説明頂き、勉強になりました。普段業務で扱っている樹脂がどの分類になるのかを改めて認識する機会となり、メリットデメリットについて再認識することになりました。

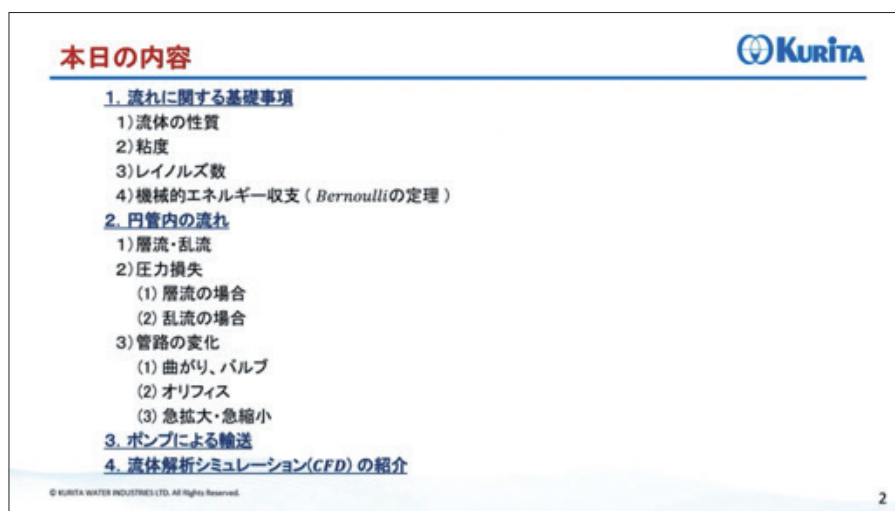


講演3. イオン交換

講演4 栗田工業(株) イノベーション本部 先進水処理開発 Gr 流体力学の基礎 岩崎様

流体に関する基礎事項やパイプ内の流体の流れについて説明いただきました。

難しい定理や公式が多くあり、内容は非常に難しかったが、身近なものを例にあげて説明してくださりわかりやすかったです。例題も載せて頂いており、講演後に復習してより学びを深めたいと思います。



講演4. 流体力学

〈三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社 錬水事業部 汎用品装置部 土方 陸登〉

私の研究内容

室蘭工業大学大学院工学研究科 界面・化学工学研究室 (山中研究室)



本研究室には、博士・修士・学士課程の学生 11 名に加え、教員、研究支援スタッフ 6 名の計 17 名が在籍しています (2026 年 3 月時点)。特徴の一つは、化学工学の他に、社会科学や情報工学を専門とする研究者が在籍している点です。複雑な社会課題に向き合うには、分野の壁を超えた視点が欠かせないからです。

研究者が在籍している点です。複雑な社会課題に向き合うには、分野の壁を超えた視点が欠かせないからです。

研究テーマ：炭酸カルシウムの高付加価値化

狙いはとてもシンプルです。必要なものは通し、不要なものは止める。ホタテやホッキなどの貝殻(主成分は炭酸カルシウム)を活用し、水中の重金属イオン(例: Cd^{2+})を取り除く研究を進めています。独自の方法で合成した多孔質炭酸カルシウムでは、さらに高い吸着性能を確認しており、物質の構造が機能を大きく左右することを実感できるテーマです。こうした材料設計や吸着・反応の考え方は、膜分離プロセスの前後工程や機能材開発とも多くの共通点があります。

社会実装：大学発スタートアップ、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

鳥インフルエンザや豚熱などの感染症対策として、消石灰 ($\text{Ca}(\text{OH})_2$) に注目しました。強いア

ルカリ性による不活化効果を持つ一方、飛散や劣化速度に課題がありました。そこで、飛散しにくく効果が長持ちする粒状消石灰と、効き目が色で分かる可視化剤を開発しました。可視化剤は、大学発スタートアップで製造しています。

最近では、対象が「モノ」から「ヒト」へと広がっています。北海道・伊達市を舞台に、「誰もが自分らしい学び方・働き方に挑戦できる街」の実現を目指し、地域への誇りと愛着を強化できる取組を産官学金民で進めています。主役は地域の人びとです。深い対話と協働を重ねながら、人と街が共に成長していく過程を私たちは「共成長」と呼び、その変容を因果関係ネットワーク図として可視化し、地域を動かす転換点を探っています。

価値観：学びのスタイル ~モヤモヤはいいこと~

研究室で大切にしているのは「なぜ?」という姿勢です。粉体の研究でも地域でも、観察と対話から仮説を立て、実践して確かめる。この循環を重ねることで、答え(因果関係)に近づくと考えています。研究や開発で「言語化しきれない違和感=モヤモヤ」を、分野や立場を越えて一緒に考えられる方々と、ぜひ対話の機会を持てればと思います。

<室蘭工業大学大学院工学研究科 教授>

山中真也

企業紹介

アサヒ繊維工業株式会社

「誠実なものづくり」で紡ぐ変革の軌跡
— 羊毛加工から液体清澄化の核心技術へ —

アサヒ繊維工業株式会社は、1949年に愛知県一宮市で創業し、羊毛の洗い加工や再生毛フェルトの製造から事業をスタートいたしました。繊維産業の海外移転が進む中、当社はフェルトがマーカ用インキ吸収体として採用されたことを契機に、繊維メーカーが開発した熱融着繊維を活用し、液体筆記具向けのペン先や吸収体の開発へと事業領域を拡大しました。さらに、自社設計・開発の生産機械による独自加工技術を確立し、空圧機器や浄水器向け濾過フィルターの製造にも取り組むことで、産業資材から生活関連製品まで幅広い分野に対応する繊維製特殊加工品メーカーとして成長してまいりました。

現在は、環境配慮型素材を用いた試作や生産効率の向上に注力し、持続可能な製造体制の構築を進めております。当社がLFPIに入会して23年となり、業界動向や技術知見を得る貴重な場として継続して参加させていただいております。今後も独自技術を生かした新製品開発や品質管理の強化を図り、「誠実なものづくり」を軸に、時代に求められる価値を提供し続ける企業として歩んでまいります。

＜アサヒ繊維工業株式会社 営業部 渡辺 直行＞



MF フィルター



ファイバーロッド



技術委員のつぶやき話(その62)

三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社 江田 庸宏

「大体こんな感じ」が逃したチャンス — 趣味の釣りで痛感した、細部へのこだわりと精進 —

40代半ばにして“体力を使わずに楽しめる趣味”として釣りを始めました。自分で釣った魚を調理して、それでおいしいお酒を楽しみたい！ということ思い描きながら海岸に出かけています。

今ではネットやYouTubeなどで初心者でも必要な情報が手に入るので、イメージがしやすく、一方でその通りにやれば簡単に釣れるものと思い込んでいました。

しかし、やはり何事もやってみないとわからないものです。記念すべき第一投は、YouTubeの動画には出てこなかった根掛かり。一人で出向いたため頼れる人はおらず、泣きそうになりながらなんとか回収。

気を取り直しての第2投。またも根掛かり。その次はリールの糸がらみ。初めての釣りは散々な結果となり、YouTubeと現実は違うということまざまざと思い知らされました。

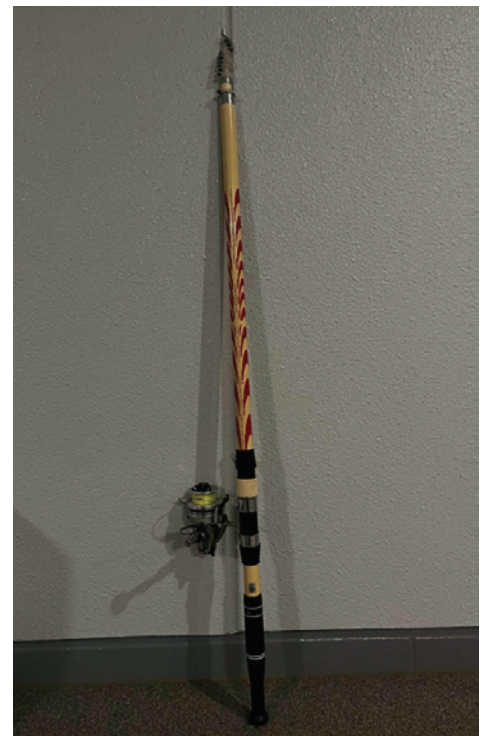
それでも「次こそは新鮮な魚とうまい酒を飲みたい！」という欲望はなくなり、数年かけて徐々に釣れるようになってきました。そうなるに「もっと釣りたい！」という欲がでてくるものです。ある時、私の2.3mほど隣でアジをどんどん釣っている人がいました。これはチャンス到来と思ったのですが、わたしの竿はピクリともしません。またある時は、釣り経験の豊富な人と一緒に釣りをする機会があったのですが、その人はアジをたくさん釣りあげているのですが、私は数匹だけ。エサも狙っている位置(タナ)もだいたい同じなのになぜ??と悔しい思いを何度か経験しました。

一体この違いは何が原因なのか。後になって冷静に考えてみると、だいたい同じと思っていたものが、よく見ると細かいところで違いがあることに気付きました。おもりのサイズやエサの大きさが違ったり、針の手前にクッションゴムをつけていたり。それらの小さな違いが結果に影響をもたらしていたのだと実感しました。

「大体こんな感じ」で取り組み、よい結果を得られるチャンスを逃してしまっていたと思うと残念でなりません。技術に携わる人間としては致命的ですね。よい結果を得るためには、何事も細部にこだわり予測を立てて結果に結び付けていく。そのための準備を行い、大雑把に取り組まないよう、精進していきたいと思います。



釣れるとうれしいアジ。美味しい！



父親から譲り受けた釣り竿。50年くらい前のもので、とにかく重い。

情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました

第41回

牛丼に抗えない理由

先日参加した学会で某大手牛丼チェーンが主催するセミナーを聴講しました。演者は京都大学名誉教授の伏木亨先生で、「牛丼のおいしさ」を生理的・生化学的な視点から解き明かすという講演をされました。なぜか定期的に牛丼屋を利用している私にとっては非常に興味深い内容でしたので、皆さんにご紹介します。

先生によれば、私たちが食品を「おいしい」と判断するメカニズムは、主に以下の4つの因子に分類されるそうです。

1. 生理的欲求 (体がエネルギーを求めている状態)
2. 食文化 (慣れ親しんだ味や習慣)
3. 情報 (ブランド、産地、評判などの知識)
4. やみつきになるおいしさ (脳の報酬系をダイレクトに刺激する快感)

中でも「やみつき」の正体は、脳の報酬系(ドーパミン・ β -エンドルフィンの分泌)を強く刺激する次元のものであり、特に「油脂・糖・だし」という3つの要素がその核心であると強調されていました。

「牛丼」を食品科学で分解してみると？

この4因子を「牛丼」に当てはめると、「やみつき感」への緻密な設計が見えてきます。

- ・ **白米(生理的欲求の充足)** デンプンが咀嚼によって糖化され、甘味受容体を介して「エネルギー源(糖)」の摂取を脳に伝えます。これが生存上の「安心感」に直結します。
- ・ **脂質+糖質(やみつきのスイッチ)** 牛肉の脂質とタレの糖質を同時に摂取することで、脳内の報酬系が相乗的に活性化。マウス実験でも「レバーを押し続けてでも欲しがる」ほどの生理的な執着が確認される、抗いがたい快感を生み出します。

- ・ **だし(うま味による満足感)** うま味成分が、味わいに深みを与えるとともに、エネルギー摂取の効率性を脳に保証します。

技術との接点：おいしさを「設計」する

おそらく牛丼の製品開発の現場では、こうした「おいしさの因子」を、工業的かつ科学的に再現・強化する役割を担っているのではないかと思います。

- ・ 糖化効率を左右する米の品種選定・炊飯条件を最適化
- ・ 脂質と糖質が同時に知覚される温度・粘度・加熱条件の設計
- ・ グルタミン酸とイノシン酸の相乗効果による満足感の安定化

これらは、いわば牛丼が持つ「本能に刺さる設計思想」を、技術の力でより高精度に磨き上げる試みと言えるでしょう。

今日のお昼の提案

牛丼を食べることは、まさに「食品科学の実地確認」です。研究と実体験をリンクさせることで、食に対する探究心が深まり、日々の技術開発への視野もさらに広がるかもしれません。今日のお昼は、ぜひ五感と知識をフル活用して、牛丼を「科学的に」味わってみてはいかがでしょうか。

<株式会社伊藤園 一谷 正己>

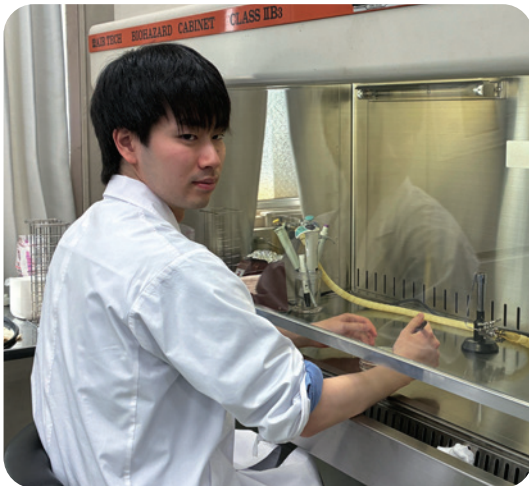




私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

内外化学製品株式会社



頼れる分析技術員を目指して

東京技術部 分析課 高山 浩典

弊社は東京都品川区に本社を構える総合水処理メーカーで、1918年に蒸気機関車用ボイラ薬品の製造から事業を開始しました。現在では、ボイラや冷却水向け薬品の提供に加え、ろ過装置や純水装置などの設計・製造、さらには排水処理まで幅広い水処理事業を展開しています。私はその中で分析課に所属し、水質分析業務を担当しています。

水処理とは、顧客の用途や設備に応じて水質を最適な状態に整える技術です。分析課では、水処理の効果確認としての水質分析に加え、スケール発生や腐食といったトラブルの原因調査、水処理方法の検討に必要な各種分析を行っています。日々の業務では、分析精度の向上と迅速な対応を意識し、安定したデータの提供に努めています。

入社6年目となり、現在は分析業務に加えて派遣社員の教育も担当しています。教える立場になったことで、これまで手順として行っていた作業についても、分析機器の原理や操作の意味を改めて理解するようになり、自身の知識の定着と業務理解の深化につながりました。また、どのように伝えれば相手に分かりやすいかを考えることは、自分自身の成長にも大きく寄与していると感じています。

最近では新たに微生物検査の習得にも取り組んでおり、先輩の指導のもと無菌操作や器具の滅菌処理などの技術を学んでいます。まだ習得すべきことは多くありますが、今後も経験を積み重ね、周囲から信頼される分析技術員を目指して努力していきます。



私たちも頑張ってます！
～若手社員の仕事風景～

大和紡績株式会社

要望に応えられているかがすべて 現場の声から紡ぎ出す、 次世代カートリッジフィルターの開発

播磨研究所 産業素材グループ 大坪 大輔



弊社グループはポリプロピレンやレーヨンなどを繊維化し、さらに製品への加工も行う一貫体制を有し、その技術を活かし衛生材料、コスメ資材、産業資材といった様々な分野への高付加価値商品を生産できることを強みとしております。

私はその中で産業資材分野のカートリッジフィルターの研究開発業務に携わっており、2022年に現在の業務に就いて以来、従来のフィルターラインナップではカバーできていない領域のフィルターの開発に取り組んでおり、これまでに既存フィルターからの改良品を開発しております。

また、開発フィルターの採用に向けた技術的なフォローについても実施している次第です。フィルターを使用していただくのはそのお客様の求める要望に応えられているかがすべてであり、その要望はお客様によって様々です。同じフィルターでも採用、不採用が分かれることも多くお客様の生の声を聴くために営業の方に同行して訪問し、伺った要望を基にフィルターの改善を検討しています。

現在はさらなるお客様の要望に応えるため、引き続き新たなフィルターの開発を進めています。フィルターにはまだまだ分からないこと、奥が深いと感じることが非常に多く、同時にやりがいを感じています。今後もフィルター開発業務を通して様々なことを学びながら、多くのお客様に使用していただけるフィルターの開発を行っていきたいと思っております。

新会員企業のご紹介

エコサイクル株式会社

弊社は1999年にセーフテクノ株式会社の環境部門が分社し、当社が設立されました。土壤汚染対策法の施行を背景に、バイオ技術を活用した土壤浄化分野へ本格参入しました。2002年には、有機塩素化合物を分解するバイオ浄化剤「EDC」を開発・特許申請し、低コストで操業中工場にも適用できる原位置型バイオレメディエーション技術として普及を進めました。2006年に現社長が就任し、2014年に施工部、2024年には水処理事業本部を設立し、現在に至ります。

水処理事業本部では、お客様の課題に対して、お客様の立場に立って計画立案・評価・実施管理を行う「オーナーズコンサルティング」と、メーカーの枠にとらわれず要求条件に最適な設備を選定しプロセス化する「オーダーメイドソリューション」という二つの強みを軸に、最適なソリューションを提供しています。

【用水処理事業】

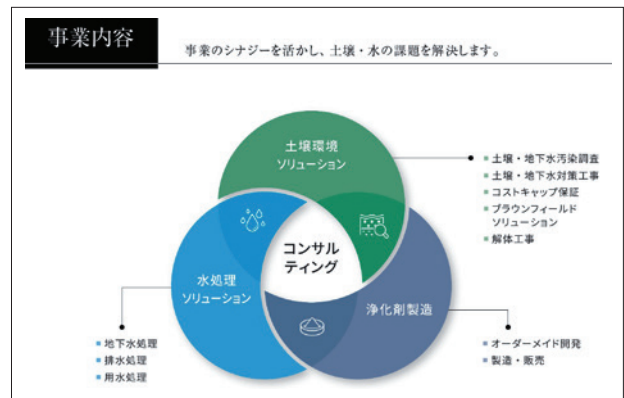
- 自己水源型浄水処理設備（地下水・工業用水等の利用）
- ニーズ適用型処理設備（食品産業等）
- 公共上水道事業（官民連携）

【排水処理事業】

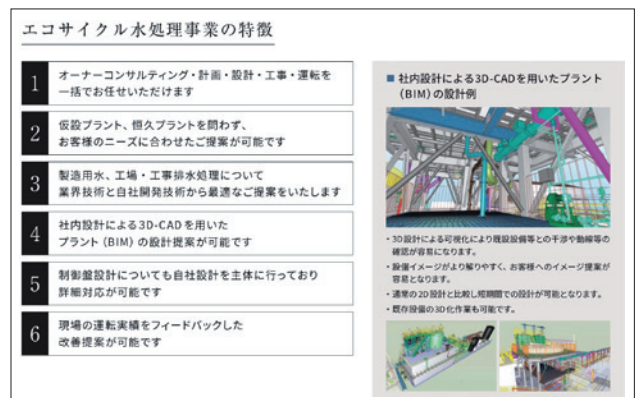
- 産業排水処理（既設設備の課題解決・改修、既設更新）
- 公共下水道事業（官民連携）

【包括O&M事業】

- 既存用排水処理設備の診断
- 施設課題の洗い出しと最適化提案（更新支援型）
- コスト平準化型（フルコミッションベース）事業モデル
- 維持管理と併せた修繕・更新計画の立案



エコサイクル事業内容



エコサイクル水処理事業の特徴

<エコサイクル株式会社 水処理事業本部 松田 俊>



新製品、新技術の発表募集

LFPI のニュースレターで、貴社の新製品、新技術を発表しませんか？
掲載費無料で、フォント・画像・レイアウト等、自由にデザインいただけます。
掲載をご希望の方は、lfpi_03@lfpi.org までご連絡ください。

【掲載条件】

- 一号につき最大 2 社までとし、3 社以上の申し込みがあった場合は先着順とします。
- 一社あたり最大 1 ページ
- 同企業・団体の記事掲載は年 1 回までとします。
- ユーザー会員も含む、全会員企業・団体の方にご利用いただけます。

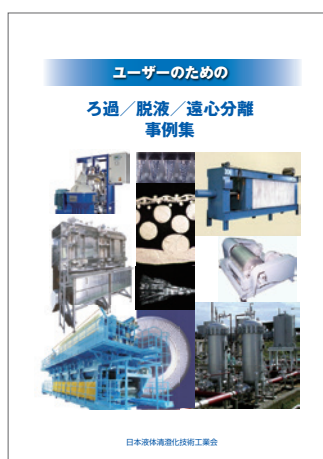


出版物紹介

「ユーザーのためのろ過 / 脱液 / 遠心分離 / 事例集」

2020 年 4 月刊行 (238 頁)

食品をはじめとする製造プロセスあるいは水処理プロセスにおいて、ろ過、脱液あるいは分離などの物理プロセスは必須のプロセスである。しかしそのプロセスは多種多様で新製品も次々と登場することから、何が最適かを理解することは困難であることが多い。またユーザーは各種プロセスの原理を学ぶ機会は少なく、これも最適なプロセスを選択することの妨げとなっている。本書は、本来であればそれだけで一冊の本になってしまうであろう、「ろ過 / 脱液の原理」、「遠心分離の原理」、「ろ材の種類」からなる第 1 ～ 3 章から始まって、主に食品を対象とする多様な製造プロセスおよび、上下水や工場排水分野における汚泥脱水への適用事例をまとめた意欲的な事例集である。



はじめに

1 章 ろ過 / 脱液の原理と操作	1
2 章 遠心分離の原理と操作	25
3 章 ろ材	40
4 章 製造プロセスでの適用事例 (液体が製品の場合)	79
5 章 製造プロセスでの適用事例 (固体が製品の場合)	161
6 章 汚泥処理での適用事例	196
7 章 Q&A	228

価格 | 会員：2,200 円 非会員：2,500 円、LFPI ホームページからの購入可能です。
<https://www.lfpi.org/business/publication/book.html>

LFPI ホームページには目次詳細が掲載されています。こちらも参考にしてください。



会

員

募

集

水の清澄化技術について

会員メンバーと共に

交流を深めませんか？



LFPIは、
液体清澄化技術の確立と
普及を促すことで、社会への
貢献を目指しています。



半導体・医薬品・高分子・石油化学・上下水道・産業排水などにおける各種液体の清澄化技術に関連した多くのメーカーやユーザーが参加しています。

委員会メンバーも大募集中！

- ◎広報委員会
- ◎国際交流委員会
- ◎総務委員会
- ◎環境・エネルギー委員会

- ◎技術委員会
- ◎青年部会
- ◎SDGs研究委員会
- ◎産学共同委員会

WEB サイト



会員情報

★社名変更のお知らせ

【一般会員】

変更前：株式会社青木工業所

変更後：AOKIスクリーン株式会社

旧社名：ハイモ株式会社

新社名：SNFハイモ株式会社

★新規会員様のご紹介

【一般会員】

株式会社クリーンアンドサイエンス 様

荏原実業株式会社 様

【個人会員】

太塚 茂記 様

編集後記

毎年、花粉症のピークと年度末の慌ただしさが重なるこの時期に、本ニュースレターの編集を担当しております。「例年の数倍」という予報を耳にするたび、花粉の飛散量が年々増していることを実感せずにはられません。

本号が皆様のお手元に届く頃、私の住む静岡県では一足早く桜が満開を迎えていることでしょうか。せめて「桜の花粉症」には悩まされないことを願いつつ（そんな症状は無いはずですが）、今年も無事に発刊できたことに安堵しております。

新年度の始まりにあたり、本誌が皆様にとって少しでも有益な情報源となれば幸いです。引き続き、LFPI ニュースレターをご愛読賜りますようお願い申し上げます。

〈株式会社伊藤園 一谷 正己〉

- ◆発行：日本液体清澄化技術工業会
- ◆編集：広報委員会（担当 エンドレスハウザー ジャパン(株)山本、(株)伊藤園 一谷）
- ◆住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11
- ◆TEL：06-6308-1011 (株)トーケミ内 安達 FAX：06-6308-1099
- ◆LFPIホームページ <https://www.lfpi.org>